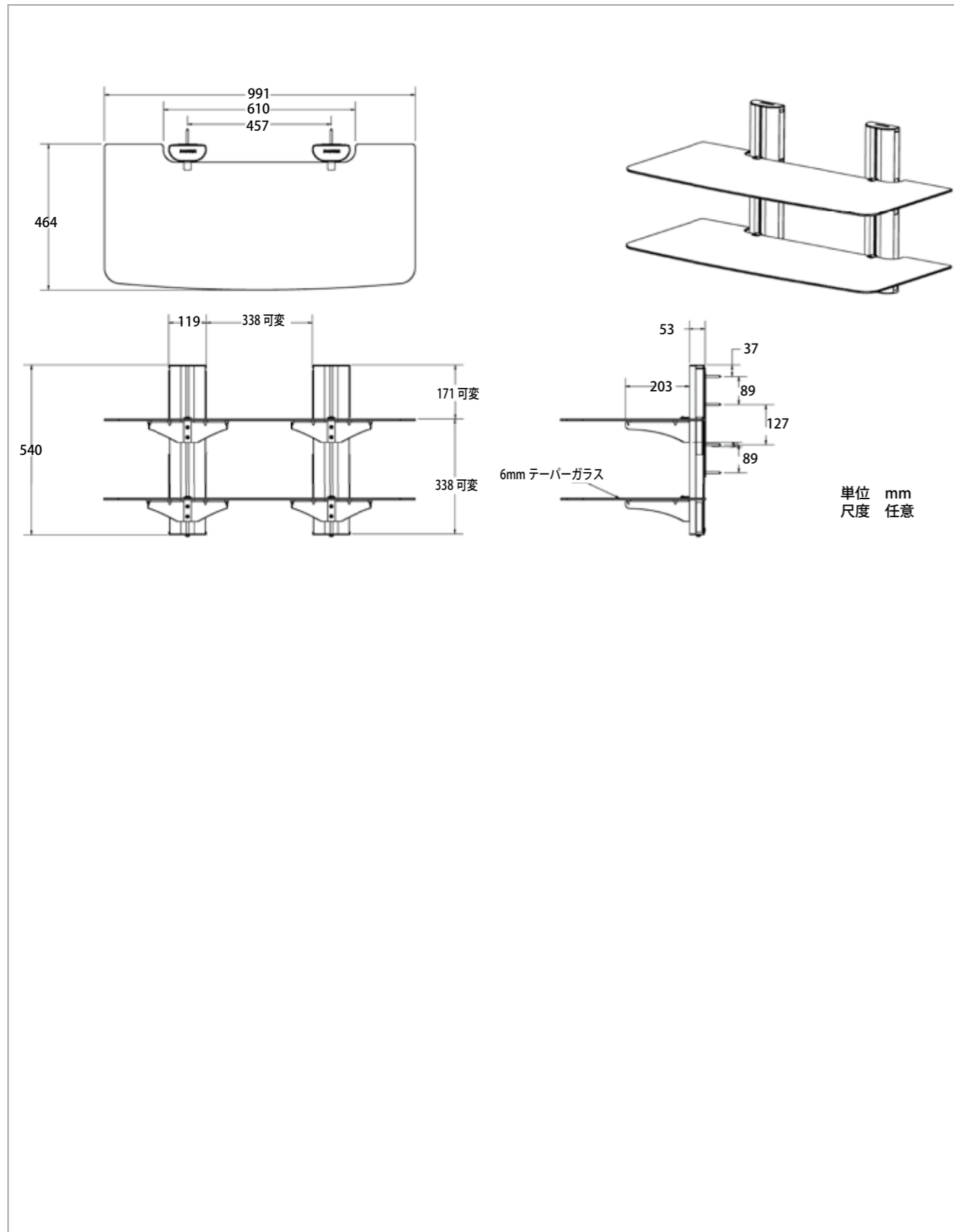


4 VF2022 外観図



VF2012-2022 ウォール
マウントラック取扱説明書

----- オーディオ機器及びビデオ機器の壁面取り付け用ラック -----

このたびは、VF2012 又は VF2022 ウォールマウントラックをお買い上げいただきましてありがとうございます。
VF2012 は総荷重 45.5kg、VF2022 は総荷重 68kg の耐荷重です。
又 VF2022 の取り付けは、2 本の柱間隔 35 ~ 43cm のみの限定です。
ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。
お読みになったあとは大切に保存してください。

お客様へ

本製品の取り付けには、確実な作業が必要となります。必ず、販売店や工事店に依頼して、安全性に十分考慮して確実な取り付けを行って下さい。

販売店様・工事業者様へ

フラットテレビの取り付けには特別の技術が必要ですので、設置の際は取扱説明書をよくご覧の上、設置を行って下さい。
取り付け不備や、取り扱い不備による事故や損傷については、当社では責任を負いません。

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害、物的な損害を未然に防ぐため、必ずお守り頂きたい事項を説明します。
表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告 人が死亡又は重傷を負う恐れがある内容を示します。

注意 人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示します。

お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

警告 人が死亡又は重傷を負う恐れがある内容を示します。

注意 人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示します。

注意 人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示します。

警告

注意 工事専門業者以外は取り付け工事を行わないで下さい。
専門業者以外が工事を行うと、工事の不備により落下してけがの原因になります。

警告 取り付け強度は、安全のため十分余裕を取って下さい。
強度が不足すると落下して死亡やけがの原因になります。

注意 荷重に耐えられない場所には取り付けしないで下さい。
強度の弱い壁や平面でなかったり垂直でない壁に取り付けると落下してけがの原因になります。
壁の強度は少なくとも棚板に搭載する機器重量の 5 倍の強度に耐える場所が必要です。

警告



禁止

VF2012 は各棚毎の耐荷重は 22.5kg まで、又 VM2012 のトータル耐荷重は 45.5kg です。
又 VF2022 は各棚毎の耐荷重は 34kg まで、又 VM2022 のトータル耐荷重は 68kg です。
両モデル共、これらの耐荷重以上の荷重では絶対使用しないで下さい。
この指定を守らないと、棚板や支柱が落下して、けがをしたり棚に載せた機器が破損する原因となります。



禁止

湿気やほこりの多いところや油煙や湯気の当たる場所や屋外には取り付けしないで下さい。
搭載機器に悪影響をあたえたり、火災・感電の原因になります。



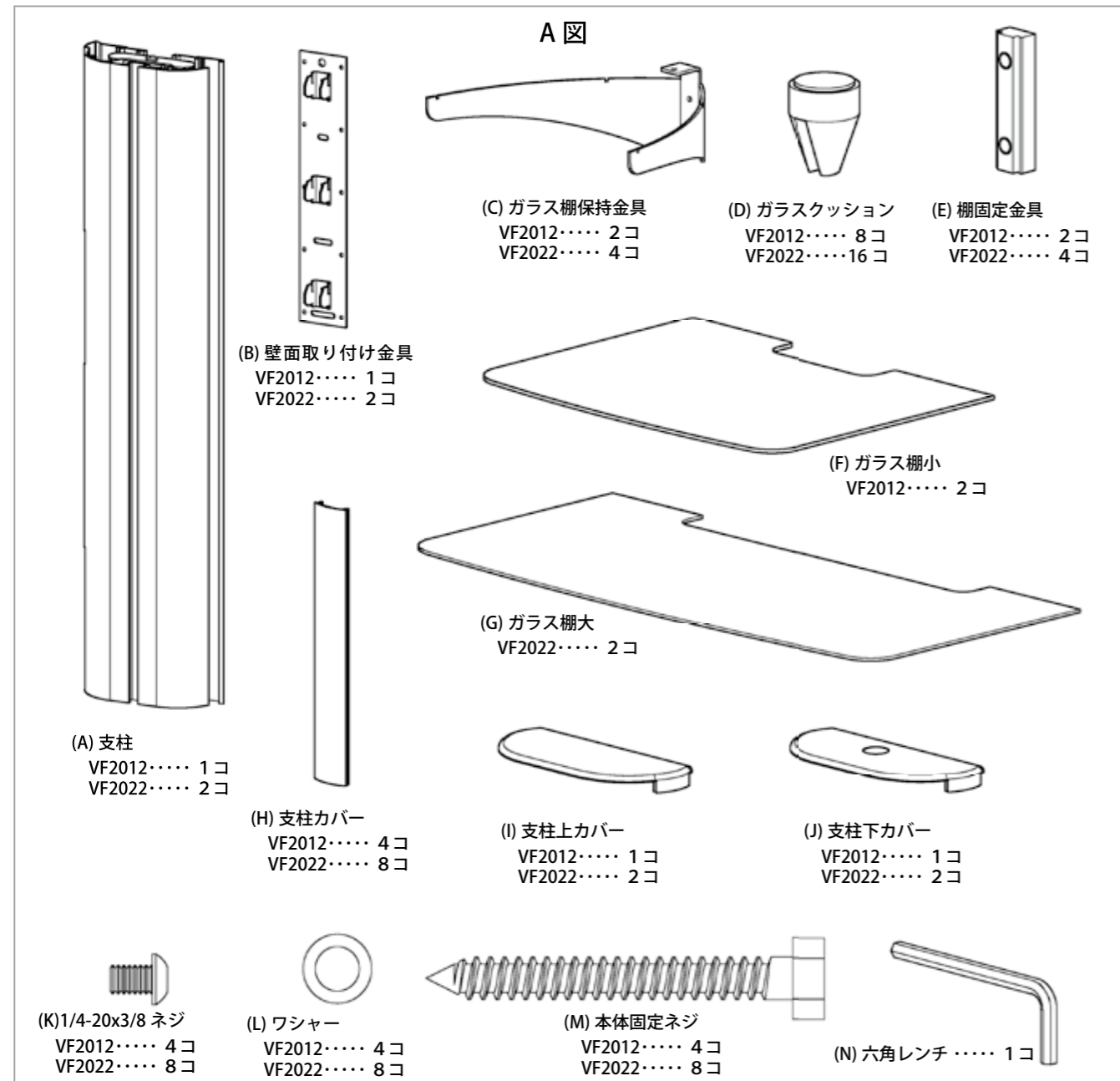
組み立ての手順を守り、指定の箇所はすべて確実にネジ止めして下さい。
ネジ山の破損したネジや、さびたネジは絶対使わないで下さい。
指定を守らないとテレビの取り付け後に破損や落下等、思わぬ事故の原因となることがあります。



壁掛け金具を壁面に固定するネジは下記の部品表に記載してありますが、壁面の材質や強度によっては不適合な場合がありますので、その場合は市販の適切なネジを使って下さい。

2. 部品一覧表

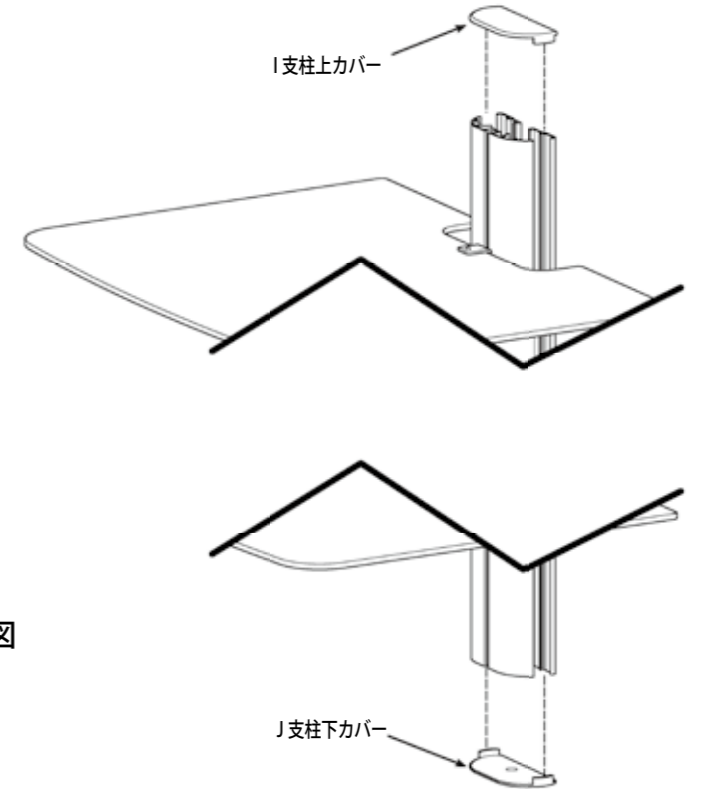
梱包を開梱し、組み立てる前に、次のA図の部品名と現品の形を、確認しておいて下さい。



(2)

9 支柱カバーの取り付け

- (1) N 図の上方に示すように支柱上カバー (I) を、支柱の上からカチット挿め込みます
- (2) VF2012 の場合は 1 本の支柱に、VF2022 の場合は 2 本の支柱に取り付けます。
- (3) N 図の下方に示すように支柱下カバー (J) を、支柱の下からカチット挿め込みます
- (4) VF2012 の場合は 1 本の支柱に、VF2022 の場合は 2 本の支柱に取り付けます。



10 デーブル類の整理と収納

- (1) ガラス棚に搭載した機器の電源コードや、アンテナケーブルや、AV ケーブル等のケーブル類は、O 図に示すように支柱の両脇に設けたスリットの中にきれいに収納します。
- (2) 全てのケーブル類の収納が完了すれば、支柱カバー (H) を支柱の両脇の溝の中に挿め込みます。VF2012 の場合は 4 箇所、VF2022 の場合は 8 箇所に挿め込みます。
- (3) 以上で VF2012 又は VM2022 の組み立て作業は完了です。

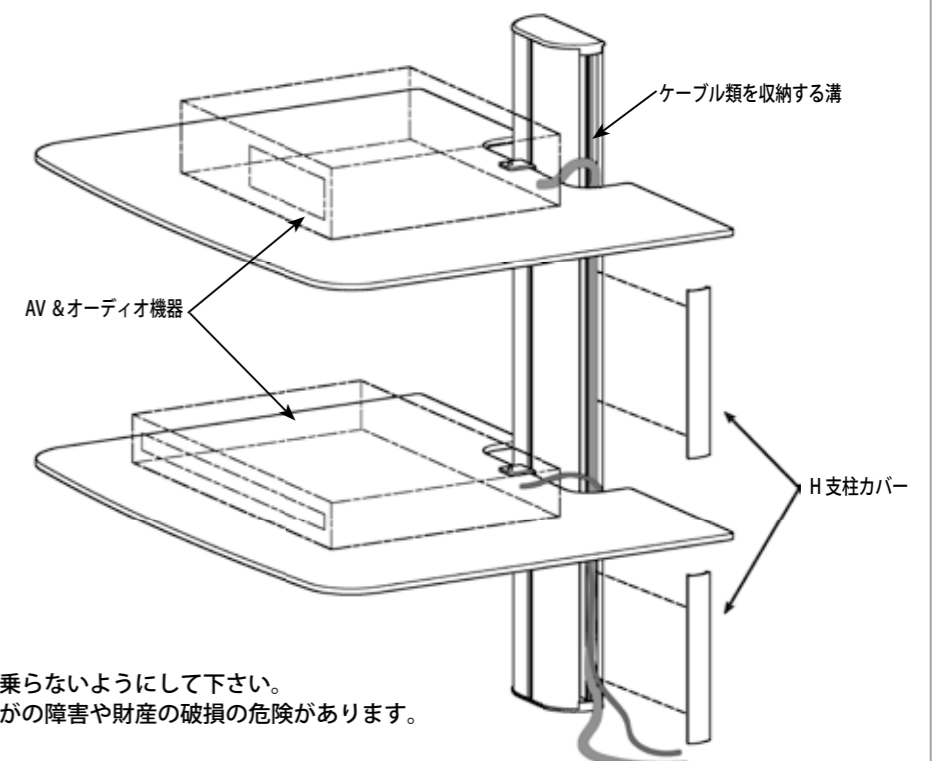


禁止

ガラス棚の許容荷重は次の通りです

VF2012 の場合
各棚毎 22.5kg ラック全体 45.5kg
VF2022 の場合
各棚毎 34kg ラック全体 68kg

これ以上の荷重を架けると、
障害や物損の危険があります



禁止

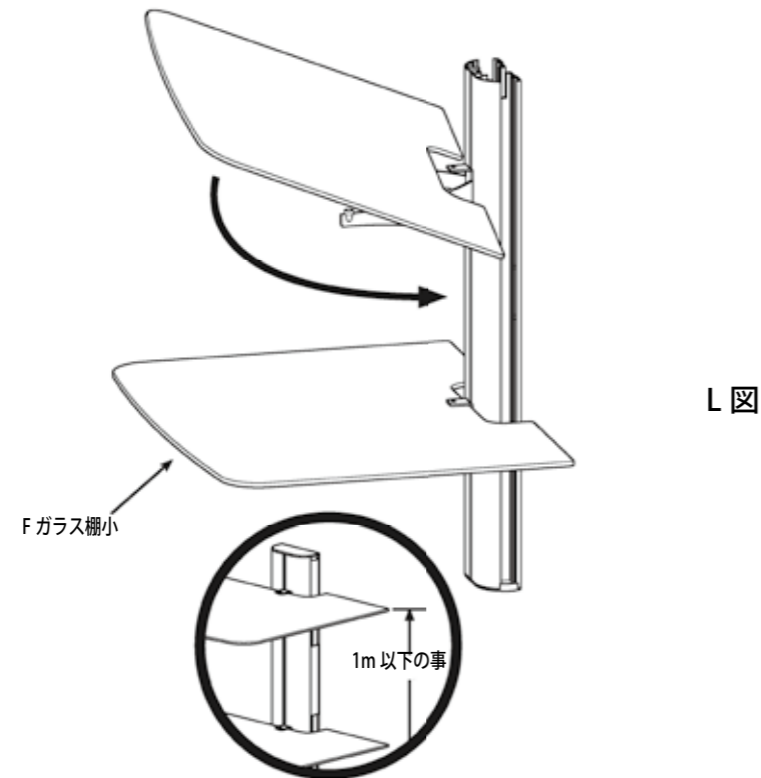
注意：ガラス棚の上に子供等が絶対乗らないようにして下さい。
棚板や搭載機器が落下してけがの障害や財産の破損の危険があります。

(11)

8 ガラス棚を取り付ける

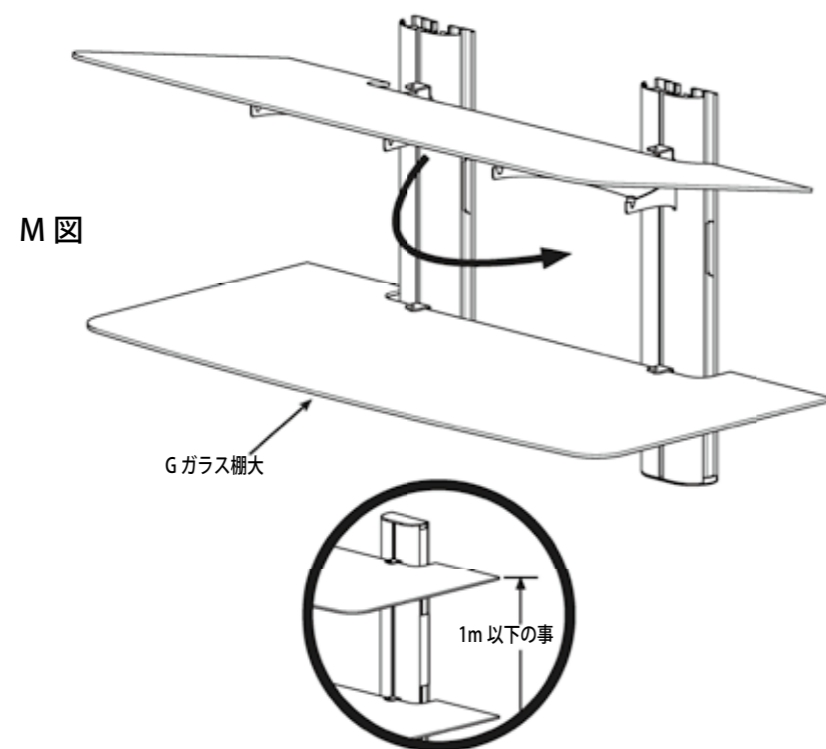
VF2012 の場合

- (1) ガラス棚小 (F) を 1 枚取り出し、L 図のように上から被せるような要領でガラス棚保持金具 (C) の上に載せます。
- (2) ガラス棚小の後縁と支柱の間隔は 1mm 程度開けて後方に寄せます。
又、ガラス棚小は、ガラス棚保持金具に対して、左右対称な位置に合わせます。



VF2022 の場合

- (1) ガラス棚大 (G) を 1 枚取り出し、L 図のように上から被せるような要領で二つのガラス棚保持金具 (C) の上に載せます。
- (2) ガラス棚大の後縁と支柱の間隔は 1mm 程度開けて後方に寄せます。
又、ガラス棚大は、二つのガラス棚保持金具に対して、左右対称な位置に合わせます。

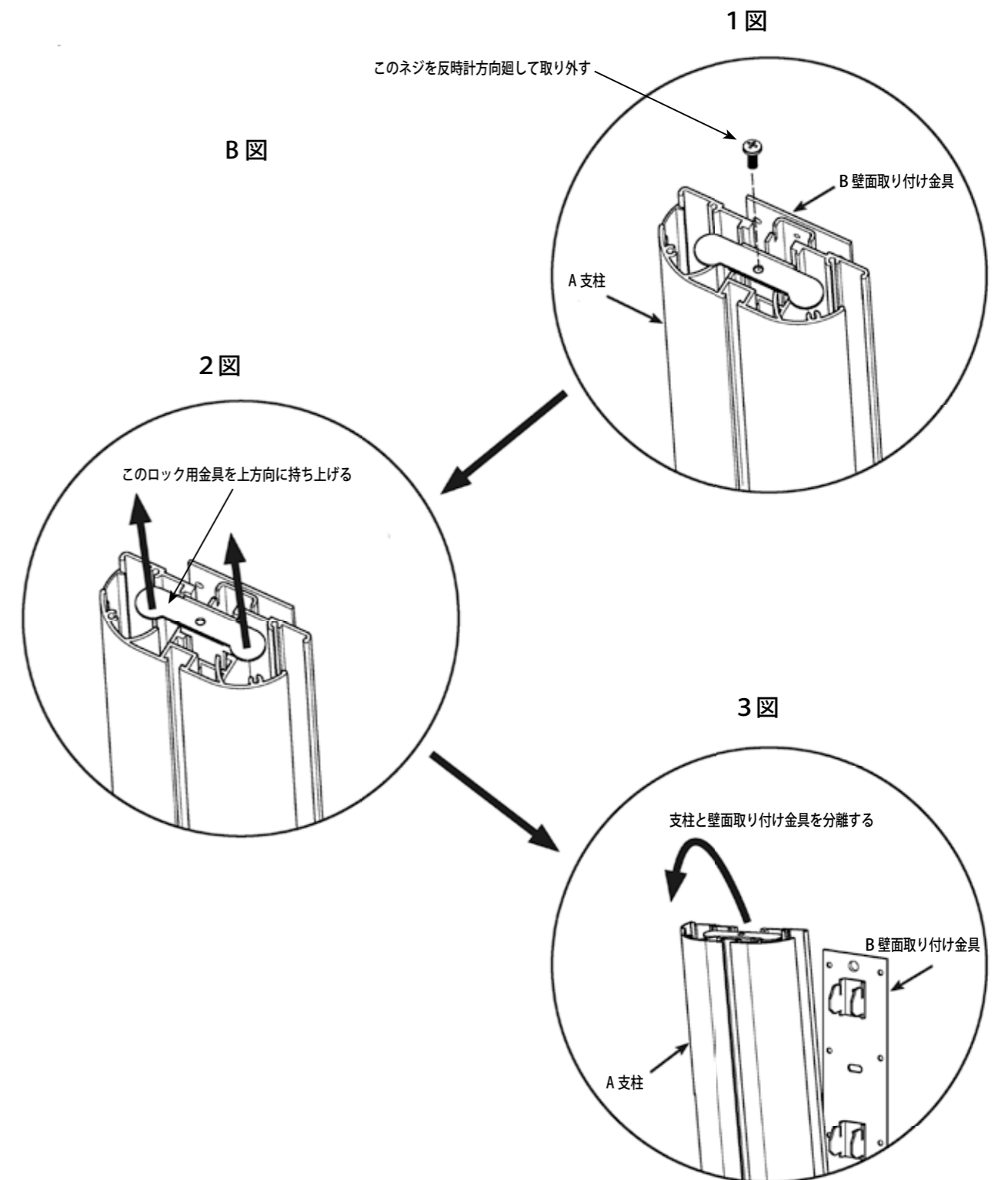


(10)

3 組み立てかた

1 支柱と壁面取り付け金具を分離する

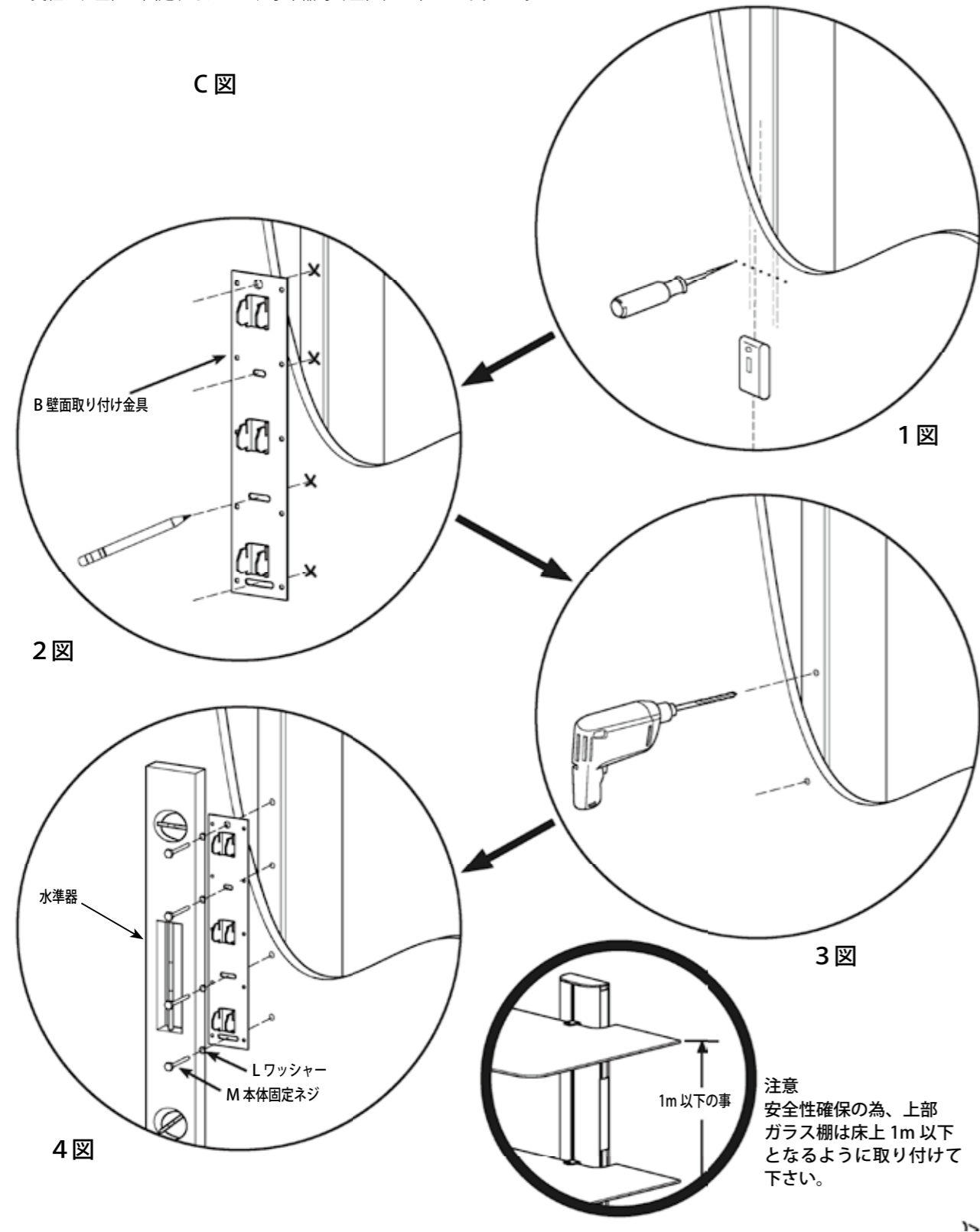
- (1) 1 図に示すネジを反時計方向に廻して切って取り外します。このネジは、後工程で使うので大切に保管して下さい。
- (2) 2 図に矢印で示したロック用の金具を上方向に持ち上げて、ロックを解除します。
- (3) 3 図に示すように、壁面取り付け金具 (B) を支柱 (A) から分離します。



(3)

2-1 壁面取り付け金具を固定する -----VF2012 の場合

- (1) 1図のように高感度柱位置検出センサーで柱の建っている位置を見つけます。
- (2) 壁面取り付け金具 (B) を型紙代わりにして、先に見つけた柱の中心に4箇所印を付けます。
この時、次の各項目を満足する高さに取り付けて下さい。
①支柱 (A) を取り付けたい位置の上下の中央付近の高さ位置に、壁面取り付け金具を固定する。
②安全性確保のため、上部の棚板は、必ず床上から1m以下の事。
③支柱 (A) の下端は、後述する支柱下カバーの取り付けや、高さの微調整の観点から、床から10cm程度上にする
- (3) 2図で印を付けた場所に、直径4.5mm、深さ64mmの下穴を開けます。
- (4) 本体固定ネジ (M)、及びワッシャー (L) を各々4コ用いて、壁面取り付け金具 (B) を壁面にしっかりと固定します。
壁面取り付け金具の上下の取り付け方向は、全面に突起した部分にスリットが切つてある方を上に向けます。
支柱は、垂直に固定するために、水準器等で垂直性を確かめて下さい。

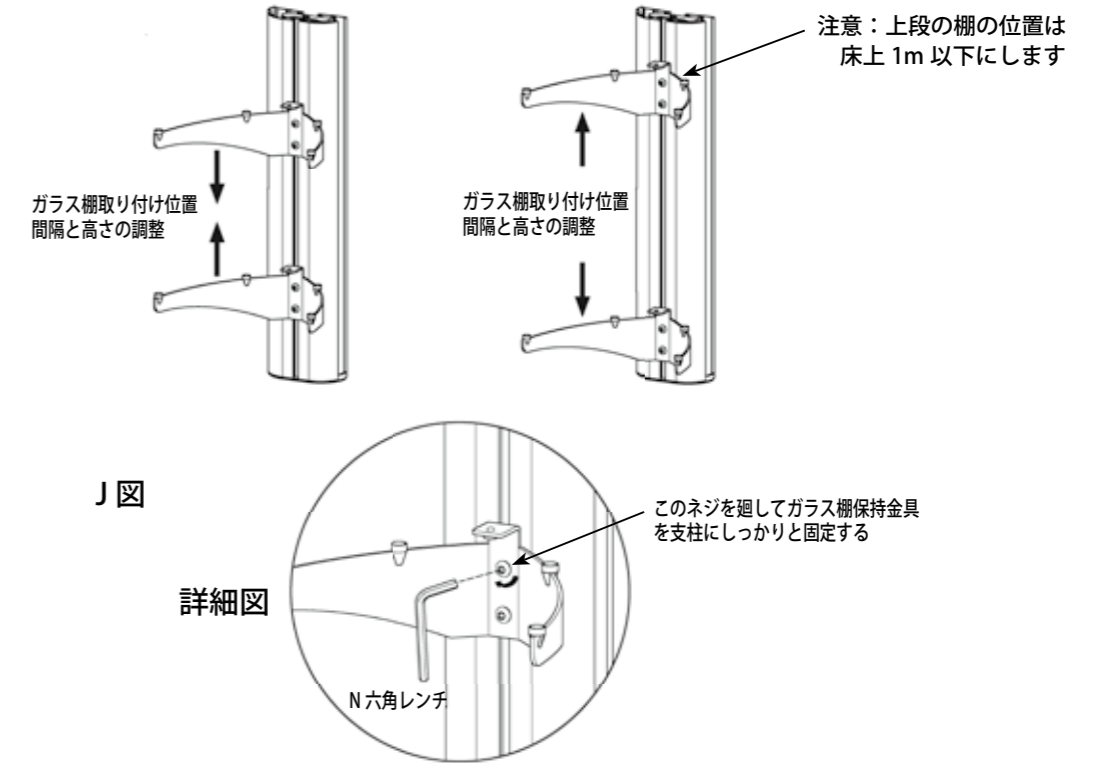


(4)

7 ガラス棚保持金具の上下位置調整

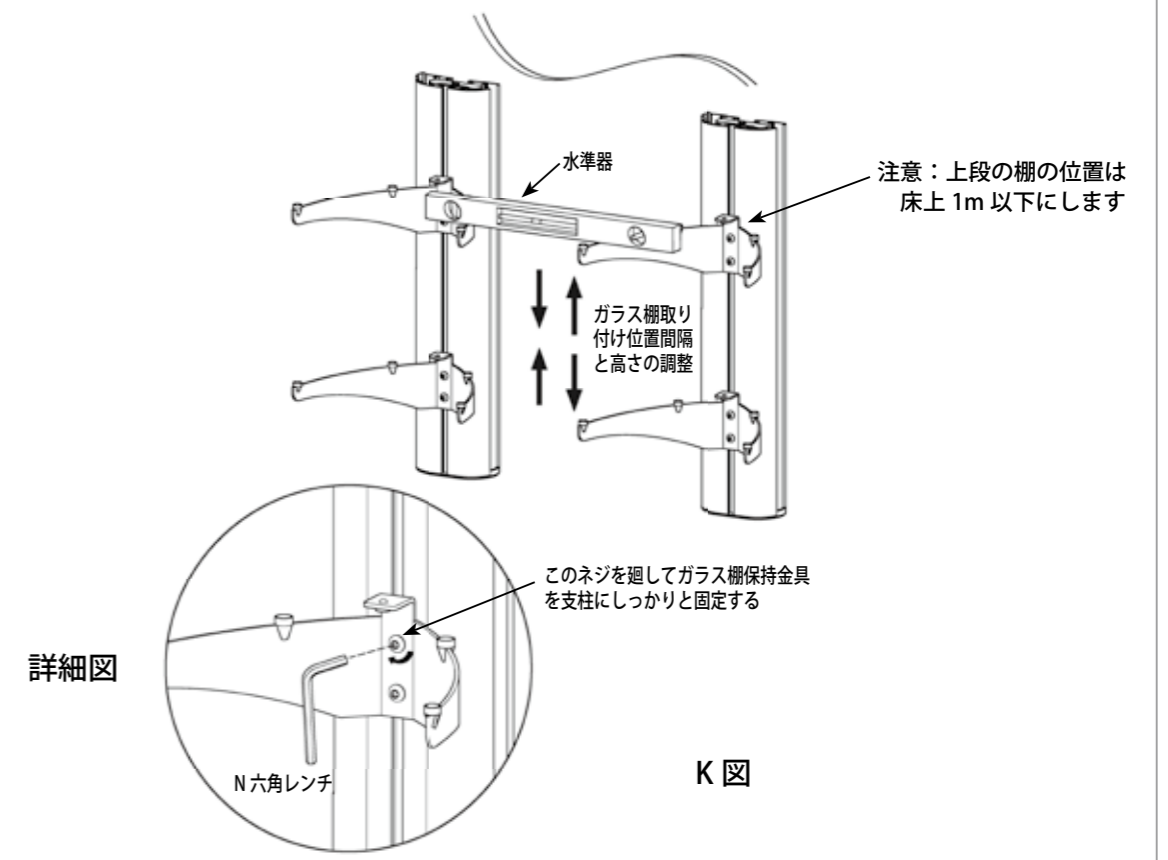
VF2012 の場合

- (1) ガラス棚保持金具は、支柱 (A) のスリットに上部から静かに挿入した後、希望するガラス棚の取り付け位置に上下にスライドさせます。
- (2) 取り付け位置が決まったら、正面中央のネジを廻してガラス棚保持金具を支柱にしっかりと固定します。



VF2022 の場合

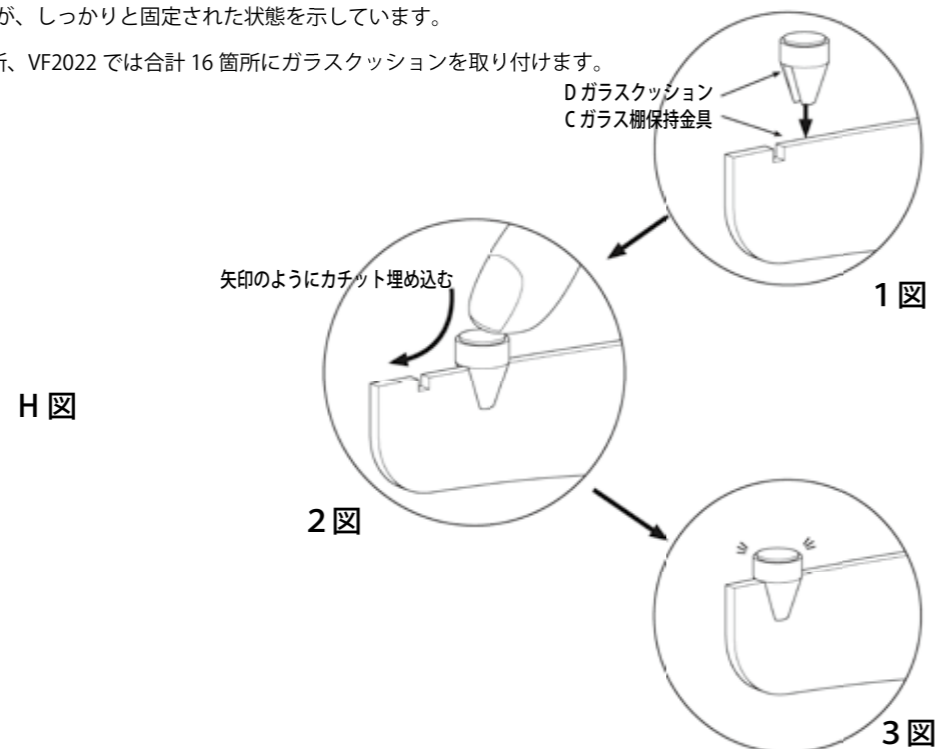
- (1) ガラス棚保持金具は、支柱 (A) のスリットに上部から静かに挿入した後、希望するガラス棚の取り付け位置に上下にスライドさせます。
- (2) 左右一組のガラス棚保持金具の高さは、同一にする必要があるため、水準器などを用いて厳密に揃えて下さい。
- (3) 取り付け位置が決まったら、正面中央のネジを廻してガラス棚保持金具を支柱にしっかりと固定します。



(9)

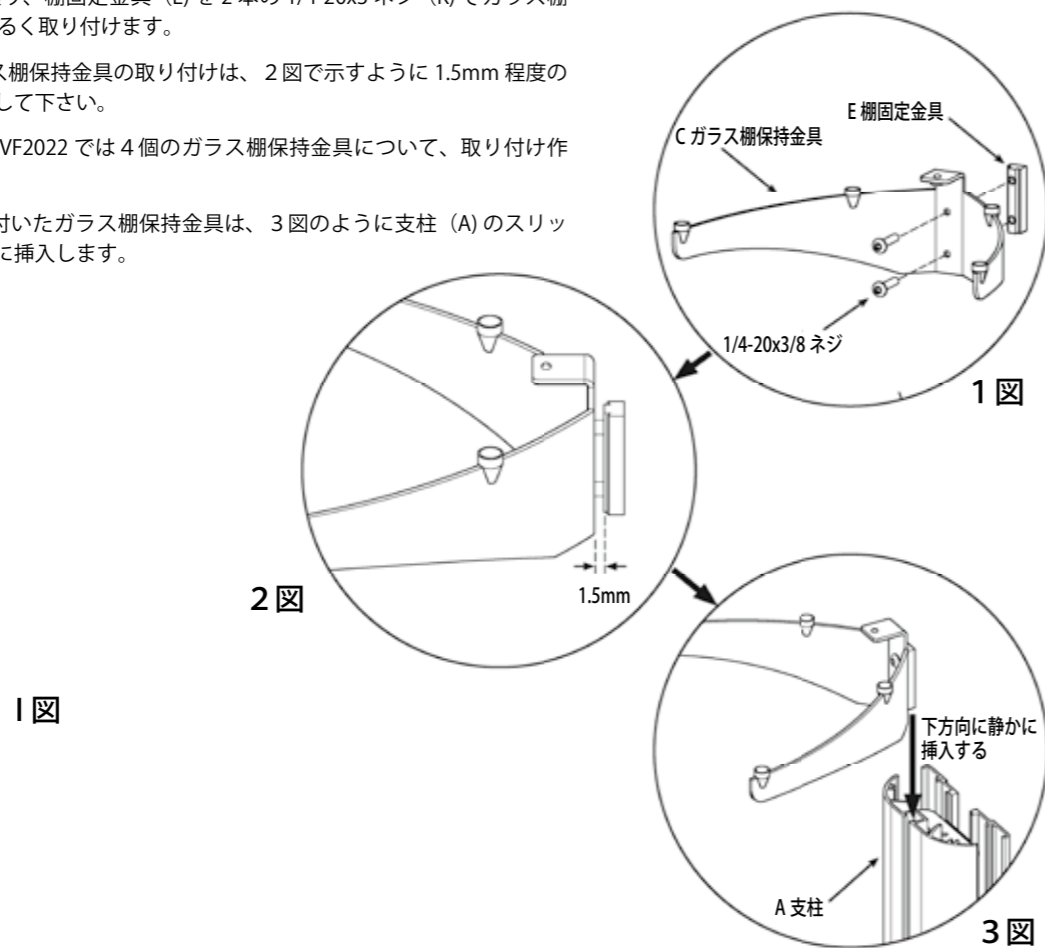
5 ガラスクッションの取り付け

- (1) ガラスクッション (D) を H 図の 1 図に示すように、ガラス棚保持金具 (C) のスリットの部分に載せます。
- (2) 2 図に矢印で示す要領で、ガラスクッションを押し下げて、ガラス棚保持金具のスリットの切れ込み部分にカチット埋め込みます。
- (3) 3 図はガラスクッションが、しっかりと固定された状態を示しています。
- (4) VF2012 では、合計 8 箇所、VF2022 では合計 16 箇所にガラスクッションを取り付けます。



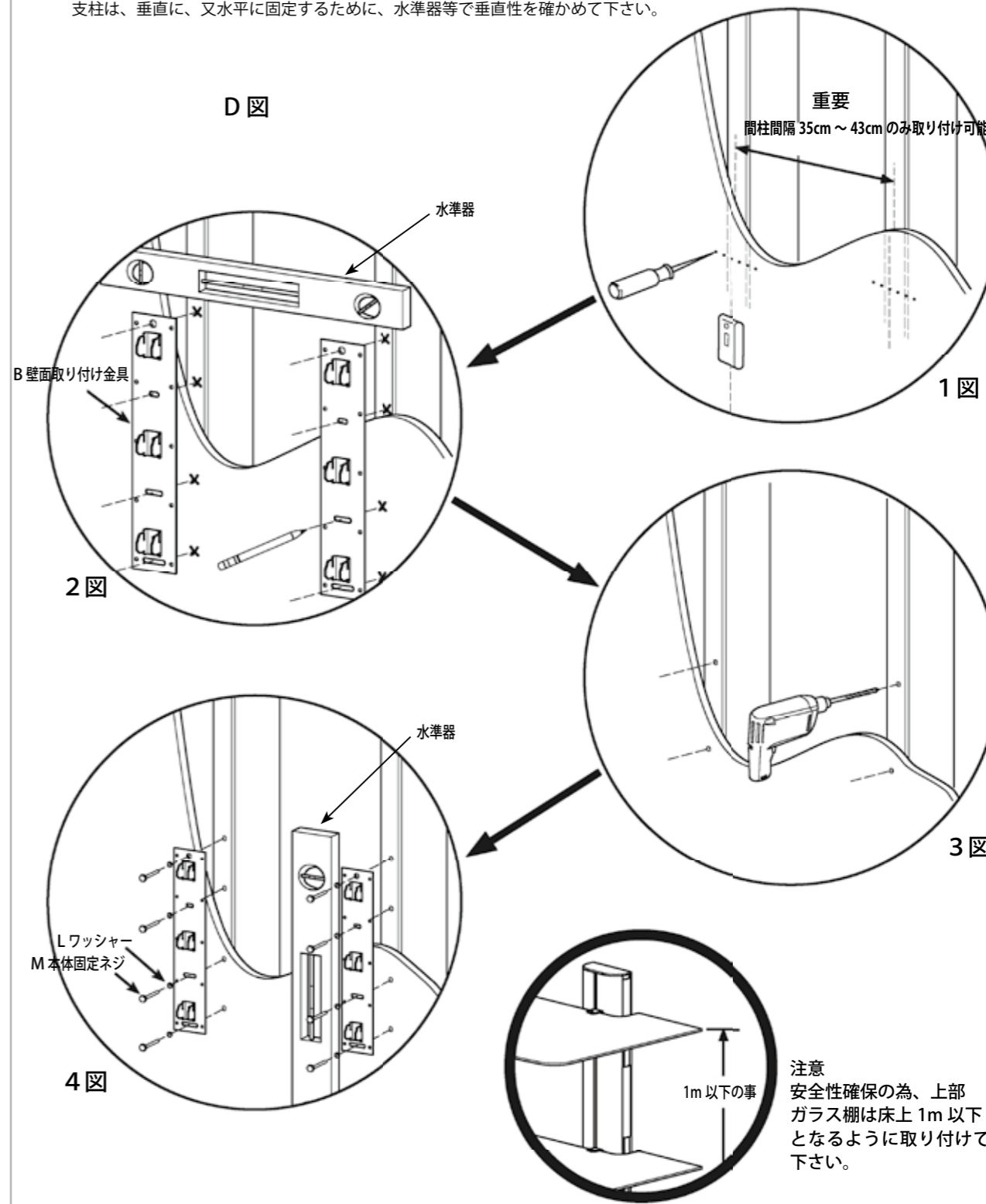
6 ガラス棚保持金具を支柱に取り付ける

- (1) I 図の 1 図に示す通り、棚固定金具 (E) を 2 本の 1/4-20x3 ネジ (K) でガラス棚保持金具 (C) にゆるく取り付けます。
- (2) 棚固定金具とガラス棚保持金具の取り付けは、2 図で示すように 1.5mm 程度の隙間が空くようにして下さい。
- (3) VF2012 では 2 個、VF2022 では 4 個のガラス棚保持金具について、取り付け作業を行います。
- (4) 棚固定金具の取り付けいたガラス棚保持金具は、3 図のように支柱 (A) のスリットに上部から静かに挿入します。



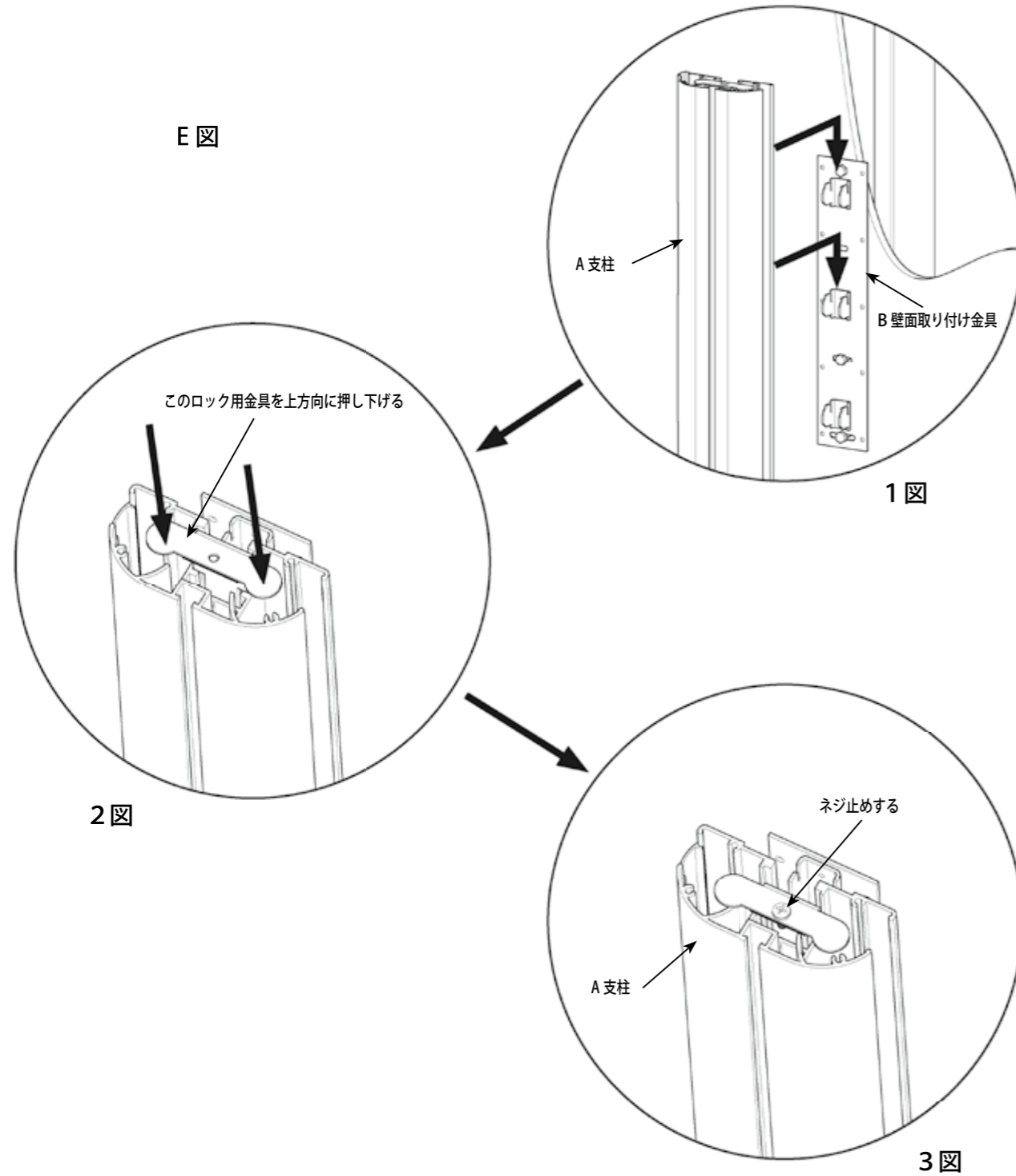
2-2 壁面取り付け金具を固定する -----VF2022 の場合

- (1) D 図の 1 図のように高感度柱位置検出センサーで 2 本の柱の建っている位置を見つけます。
なお、ガラス棚サイズの関係から、2 本の柱の間隔は、35cm ~ 43cm の範囲でなければなりません。
- (2) 壁面取り付け金具 (B) を型紙代わりにして、先に見つけた柱の中心に左右各々 4 箇所印を付けます。
この時、次の各項目を満足する高さ位置に取り付けて下さい。
①支柱 (A) を取り付けたい位置の上下の中央付近の高さ位置に、壁面取り付け金具を固定する。
②安全性確保のため、上部の棚板は、必ず床上から 1m 以下の事。
③支柱 (A) の下端は、後述する支柱下カバーの取り付けや、高さの微調整の観点から、床から 10cm 程度上にする。
④左右の 2 本の支柱は正確に垂直に、又水平でなければなりません。このため必要なら水準器などで垂直・水平性を確認して下さい。
- (3) 2 図で印を付けた場所に、直径 4.5mm、深さ 64mm の下穴を合計 8 箇所開けます。
- (4) 本体固定ネジ (M)、及びワッシャー (L) を各々 4 コ用いて、壁面取り付け金具 (B) を壁面にしっかりと固定します。
壁面取り付け金具の上下の取り付け方向は、全面に突起した部分にスリットが切つてある方を上に向けます。
支柱は、垂直に、又水平に固定するために、水準器等で垂直性を確かめて下さい。



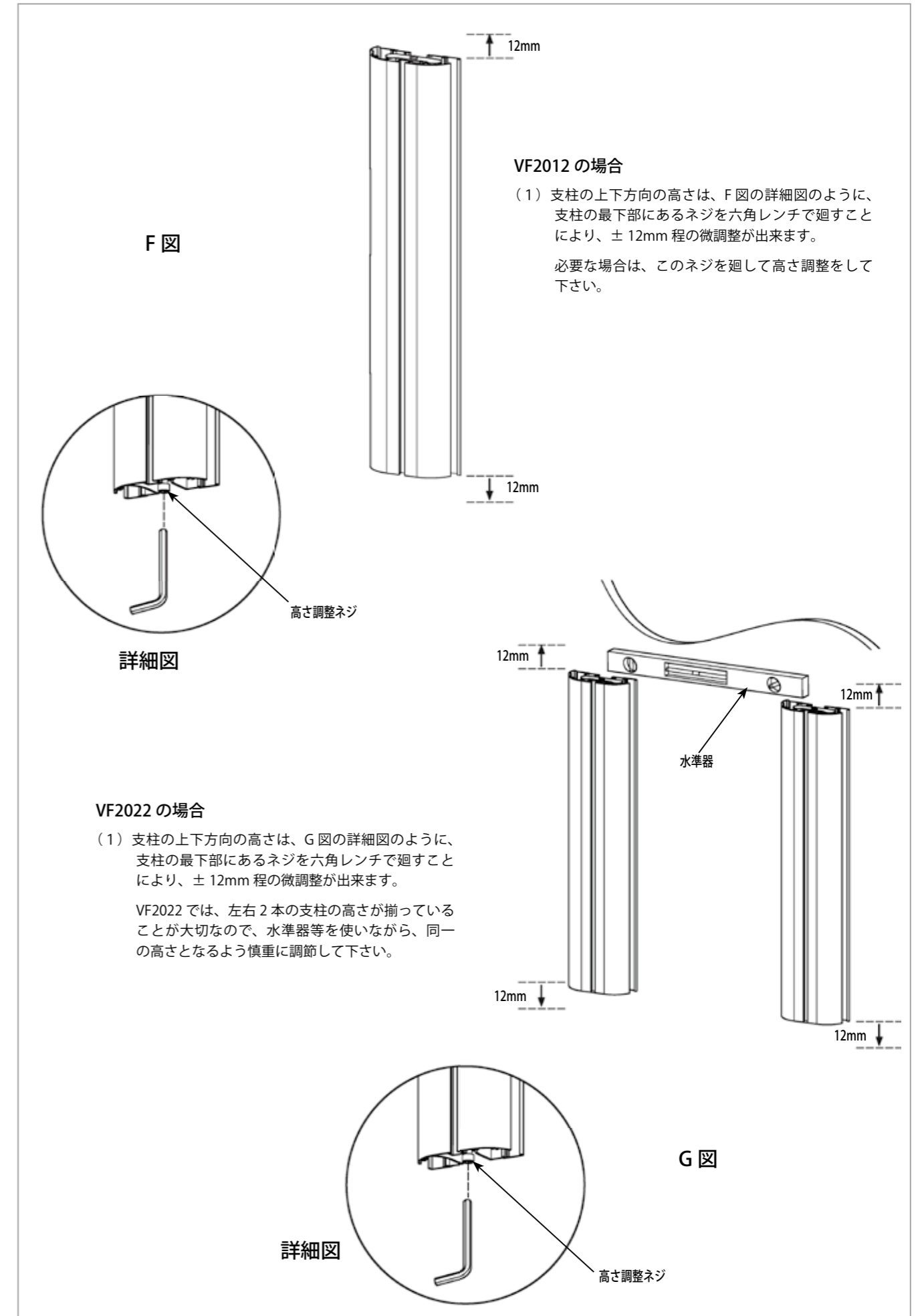
3 支柱を壁面に取り付ける

- (1) まず支柱 (A) の背面を見ながら、2図の矢印で示す金具を 10～20mm 程度上下させて、支柱内の前後に二つ見える 3mmx25mm の長形状のスリットの穴を一致させます。
- (2) 一致させたら、2図の矢印の部分に手を添えながら、支柱 (A) 支柱の背面のスリットを 1図のように、壁面取り付け金具 (B) の3箇所突起した部分に押しつける要領で同時に貫通させます。
- (3) 完全に貫通したら、2図の矢印で示した部分を下方方向にいっぱい押し下げて、支柱を壁面取り付け金具にロックさせます。
- (4) 最後に1項の「支柱と壁面取り付け金具を分離する」の(2)で取り外したネジを、3図のようにいっぱいねじ込みます。



(6)

4 支柱の上下位置の微調整



(7)